

大会規定

大会規定（本大会に関する特別規定）

本大会は、該当年度の公認野球規則及び下記の大会特別規定を適用する。

1. 本大会に参加できる選手は所属団体の規定を満たすものとする。ただし、本大会の参加資格は2020年2月8日の時点で各所属団体に登録を完了したチーム（監督・コーチ及び選手）とする。
2. チームは単独チームとし25名の選手で編成し、ベンチに入る監督、コーチ、マネージャー（スコアラーを含む）は5名まで（成人のみ）とする。
3. 選手、監督、コーチ（マネージャー、スコアラーは除く）は同一のユニフォームを着用すること。背番号は所属団体の規定に従う。
4. 各チームは必ず成人である責任者が引率し大会中は選手の行動ならびに観客席での応援などに対して責任を負うこと。
5. 応援については電子機器（拡声器やアンプ、スピーカーなど）を使用しての応援は不可とする。それ以外の鳴り物を使用しての応援は自軍の攻撃時のみとする。
6. ゴミは球場施設内に捨てず必ず持ち帰ること。スタンドで応援する選手、家族にも徹底すること。
7. 傷害処置については大会中の負傷又は疾病に対して応急処置は施すがそれ以上に関しては主催者は責任を負わない。
8. 登録メンバー変更は大会1週間前を最終期限とする。
9. 試合・シートノック時、グラウンド内では常に本人確認ができるよう指導者・選手はグラウンドコート着用を禁止とする。

大会規則

1. 各チームの監督と主将は前試合3回終了後メンバー表を大会本部に提出し、審判部立ち会いのもと試合の攻守を決定する。同時に投球回数申告書（投手ごとに前試合、前日までの投球回数を記入）を提出し大会本部は提出されたメンバー表と登録票との照合を行なう。試合開始前に用具点検を行う。
2. 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後、不慮の事態により試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決定する。同点の場合は抽選で勝敗を決める。試合成立前に上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとし、実行委員会が指定した日時、場所で中断した状況で再開する。
3. 試合開始から準々決勝・準決勝は2時間、決勝戦は2時間20分を越えた場合は新しいイニングには入らない。
4. コールドゲームは、4回10点差、5回以降7点差とする。ただし、決勝戦にはコールドゲームを適用しない。
5. 準々決勝については、7回終了もしくは、試合開始から2時間を越えて同点の場合、7回を終了していなくても新しいイニングに入らずタイブレーク方式を実施する。
準決勝については、延長9回終了もしくは、試合開始から2時間を越えて同点の場合、新しいイニングに入らずタイブレーク方式を実施する。
決勝戦については、延長10回終了もしくは、試合開始から2時間20分を越えて同点の場合、新しいイニングに入らずタイブレーク方式を実施する。（タイブレークは1イニングで決着がつかない場合は2イニングまでとする）

【タイブレーク方式細則】

(1) タイブレーク方式に関する規則

- ① 準々決勝は延長戦は行わず7回終了もしくは試合開始から2時間を越えた場合、準決勝は9回終了もしくは、試合開始から2時間を越えた場合、決勝戦は10回終了もしくは2時間20分を越えて同点の場合、攻撃は一死走者満塁の状態から行うものとする。（タイブレークは1イニングで決着がつかない場合は2イニングまでとする）
それでも同点の場合は抽選で勝敗を決める。
- ② 打者は前回正規に打撃を完了した打者の次打者とする。（継続打順）
- ③ この場合の走者は前項による打者の前の打者が一塁走者、一塁走者の前の打者が二塁走者、二塁走者の前の打者が三塁走者となる。
- ④ この場合の代打、代走は認められる。

(2) 記録に関する規則（チーム、個人記録は公式記録とするが、次に上げる事項に留意すること）

- ① 投手記録
 - A. タイブレークにより出塁した3走者は投手の自責点としない。
 - B. 完全試合は認めないが、無安打無得点試合は認める。
- ② 打者記録
 - A. タイブレークにより出塁した3走者の出塁は記録されない。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
 - B. タイブレークにより出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録する。

5. 投手は同一日に7イニングまで、連続した2日間で合計10イニングまでとする。また、連続した2日間で合計5イニングを超えた投手（5イニングは可）はダブルヘッダーの投手または捕手として出場することはできない。
ただし、端数回数（1/3、2/3回）は試合毎に切り上げて1回とする。本項はタイブレークにも適用される。

6. 選手が打席に入るときは、必ず両耳付きヘルメットをかぶること（次打者も含む）。また、走者も危険防止のため必ず着用すること。なお、捕手も危険防止のため必ず着用すること。（練習時も含む）
7. 特別代走の適用、死球による負傷などにより、一時的な休息により試合に出場できると判断したときに限り適用する。この場合、該当する打者の最も近い打撃の完了した選手（投手を除く）を特別代走者とする。
8. 本大会は金属バットならびに、金属と他の材質との接合バットの使用を認める。
9. 監督（コーチ）の指示、伝達は1試合（7イニング）で攻撃2回と守備2回の計4回とする。監督（コーチ）が2回投手のもとへ行ったあと3回目に行けば投手は自動的に交代しなければいけない。その投手は他の守備位置についてもよいが再び投手として登板することはできない。
10. 野手が2人以上マウンドに行った場合も1回とカウントする。
11. 延長またはタイブレークに入った場合はそれぞれで1回の指示、伝達を認める。
（選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない）
12. 1イニングで同一投手に対して指示、伝達が2回目となれば自動的に投手は交代となる。

大会特別規定・補則

1. 球場に到着したチームは、速やかに大会本部にその旨を報告しメンバー表を受け取る。
2. ベンチは組み合わせ表の上段（左側）のチームを一塁側とする。
3. グラウンドインから試合終了まで、監督、コーチ、スコアラー、登録選手以外はベンチに入ることができない。
4. グラウンドインしたチームは大会本部の指示のもとグラウンドルールに従い速やかに試合前練習を行うこと。
5. 試合前のシートノックは5分間とし後攻のチームが先に行う。
6. 試合をスピーディーに行うため以下の項目を守ること。
 - ① 攻守交代時に守備に移るチームが速やかにポジションにつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチはミーティング（円陣）に加わらず、所定の位置に速やかにつくこと。
 - ② 投球を受けた捕手は速やかに投手に返球し、これを受けた投手はただちに投手板を踏んで投球位置につき、捕手からのサインを受けること。
 - ③ 投手の投球練習（救援投手を含む）は初回に限り7球以内（1分を限度）とする。また、次回からは5球以内とする。
 - ④ 打者はみだりにバッターボックスを出ることは許さない。たとえタイムを要求しても審判員がタイムを宣言しないときはインプレイとする。
 - ⑤ 次打者は必ずネクスト・バッタースサークルに入り膝をついて待機すること。但し、危険防止を踏まえた上で片膝をついてスイングすることは認める。
 - ⑥ 捕手は投手に返球したり野手に声をかけるために一球ごとにホームプレートの前に出ないこと。
7. コーチスボックスには、監督、コーチ、選手のいずれかが入ること。その際必ずヘルメットを着用すること。（選手が入る場合は両耳ヘルメットとする）
8. 規則4.06に規定のとおり、監督、コーチ、選手、スコアラー、マネージャー等、いずれも相手選手を惑わすような行動はとってはならない。
9. 手袋、リストバンド、エルボーガード、フットガードの使用を認める。打者が走者になった場合これらの着脱のためだけのタイムは認めない。ただし打者走者が二塁ベースに到着した際に限りこれらの着脱のタイムを認める。（速やかにベースコーチが取りに行くこと）
10. 次の試合のチームは前の試合の4回終了後ブルペンで投球練習を行う。
11. 試合中の投球練習は、自チーム側の特設ブルペン（ファールグラウンド）で行うこととする。
12. グラウンド内での投球練習を行うときは安全対策上、打球監視員を必ず1名置くこと。この時の打球監視員は登録選手を置くこととする。
13. バットボーイ、ボールボーイ、シートノック補助員は登録選手が務める。
14. 試合中のグラウンド内での素振りは原則禁止とする。
15. 申告敬遠を認める。

打者が打撃中にボール4個を得るか、守備側チーム監督が打者を故意四球とする意思を審判員に示し、進むことが許される裁定である。守備側チームの監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合（この場合はボールデッドである）、打者には、ボール4個を得たときと同じように、一塁（が与えられる。）へ進むことが許される。

※申告故意四球の確認事項

- ① 従来通り、投手が敬遠するために実際に投球して四球にすることも可能。
- ② 打撃中の投球カウント途中においても守備側の監督が申告することが可能。
- ③ 守備側の監督から申告されれば、球審はボールデッドとして打者に一塁を与える。
- ④ 申告による四球は実際に投球されていない場合、その投手の投球数としてカウントはしない。
- ⑤ 攻撃側チームが代打を告げた場合、先に代打の手続きを行ってから敬遠のリクエストを受ける。
- ⑥ 投手が交代した最初の打者が申告による敬遠で一塁に進んだ場合、投手は1人の打者と対戦したとみなされ、交代することができるようになる。
- ⑦ リクエストにより敬遠を行った場合、その時点でアピール権が消滅する。